

出会い、ふれあい、心の輪



〈完全参加と平等〉

平成21年度入賞作品集

「心の輪を広げる体験作文」 「障害者週間のポスター」

平成21年12月

沖

縄

県

目次

平成二十一年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」	講評	1
心の輪を広げる体験作文	審査講評	1
障害者週間のポスター	審査講評	1
	審査委員	1
	審査委員一同	2
	与久田健一	4

心の輪を広げる体験作文入賞作品

最優秀賞

小学生部門（沖縄県知事表彰）

みんなともだち、いちねんせい

石垣市立白保小学校 一年生

安生心優

優秀賞
ゆうしゅうしょう

中学生部門
ちゅうがくせいぶもん

「障害を持つ人の気持ち」
しょうがいもつひとのきもち

沖縄尚学高等学校附属中学校 三年生
おきなわしょうがくこうとうがくつこうふぞくちゅうがくつこう ねんせい

長嶺 佑香
ながみね ゆか

1 1

中学生部門
ちゅうがくせいぶもん

「心の輪」
こころのわ

沖縄尚学高等学校附属中学校 二年生
おきなわしょうがくこうとうがくつこうふぞくちゅうがくつこう ねんせい

田場 衿花
たば えりか

1 3

中学生部門
ちゅうがくせいぶもん

みんな同じ
みんなおなじ

沖縄尚学高等学校附属中学校 三年生
おきなわしょうがくこうとうがくつこうふぞくちゅうがくつこう ねんせい

都倉 結衣
とくら ゆい

1 5

高校生・一般市民部門
こうこうせい いっぱんしみんぶもん

大切な言葉
たいせつなことば

沖縄県立 首里東高等学校 二年生
おきなわけんりつ しゅりひがしこうとうがくつこう ねんせい

浦崎 汐璃
うらさき しおり

1 7

しょうがいしゃしゅうかん
 障害者週間のポスター入賞作品
 にゅうしゅうさくひん

ゆうしゅうしょう
 優秀賞

しょうがくせいぶもん
 小学生部門
 ちゅうがくせいぶもん
 中学生部門

いとまんしりつ
 糸満市立
 しおひらしょうがっこう
 潮平小学校
 ねんせい
 四年生
 ちやたんちようりつ
 北谷町立
 くわえちゅうがっこう
 桑江中学校
 ねんせい
 三年生

あさと いちか
 安里 一香
 いれい ちあき
 伊・千秋

2 3 2 3

さんこうしりよう
 参考資料

へいせい ねんど
 平成二十一年度
 こころ わ ひろ
 「心の輪を広げる体験作文」
 およ
 及び
 しょうがいしゃしゅうかん
 「障害者週間のポスター」
 しんさいいんめいぼ
 審査委員名簿
 へいせい ねんど
 平成二十一年度
 こころ わ ひろ
 「心の輪を広げる体験作文」
 およ
 及び
 しょうがいしゃしゅうかん
 「障害者週間のポスター」
 おうぼじようきよう
 応募状況

2 5 2 6

平成二十一年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」講評

今年度も「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間のポスター」の募集が内閣府と各都道府県・指定都市の共催で実施されました。これは、障がいのある人々に対する正しい理解と認識を広めるとともに共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して実施されたものです。今年度の体験作文は「出会い、ふれあい、心の輪」、ポスターは「障害の有無にかかわらず、誰もが能力を発揮して安全に安心して生活できる社会の実現」をテーマに募集しました。

沖縄県内の作文の応募状況は、総数四十八編で、小学生部門二編、中学生部門四十四編、高校生・一般市民部門二編でした。ポスターは、総数二点で、小学生部門一点、中学生部門一点でした。応募してくださいました、児童生徒、市民の皆さん、そしてご協力くださった各学校に対して心から感謝申し上げます。

作文の小学生部門では、今年度は二編の応募があり、特に一年生の応募があつたことはうれしい限りです。中学生部門は、沖縄尚学高等学校附属中学校が毎年度応募し、今年度も、各学年からの応募がありました。応募した学校は、三校と少なく、応募が特定の学校に限られていたことで、全体として広がりが見られませんでしたが、もつと、全県的な取り組みが望まれるところです。高校生・一般市民部門では、高校生と障がいのある当事者からの応募がありました。昨年同様、応募者が少なくその中からの選考となりました。

作文は、文章表現以外に、本件募集の趣旨に照らして、選考しました。入選した作文及びポスターの審査講評は以下のとおりです。

心の輪を広げる体験作文審査講評

○小学生部門

沖縄県知事賞・最優秀賞に選ばれた石垣市立白保小学校一年 安生心優さんの作品「みんなともだち、いちねんせい」は、特別支援学校の生徒との交流を通して、気持ちの変化や障がいのある生徒を理解していく様子が生き生きと描かれています。最初はどのように対応してよいかわからずドキドキしていたが、合唱やスケボ―三輪車、サバニ漕ぎ競争などのゲームと一緒にやっつていく中で励ましあったり、喜びなどを共有することで「自分と同じなんだ。」と心優さんの気持ちの変化とともに障がいのある一年生を理解していく様子がうまく表現されています。とくに、交流を通してドキドキ感が「すぐドキドキ」、「ドキドキもどこかへとんでいてしまいました」と変化の様子がみごとに表現されており、感心しました。

○中学生部門

入選した三作品に共通しているのは、テーマに沿った内容でうまく表現しているところです。最優秀賞に選ばれた沖縄尚学高等学校附属中学校三年 長嶺佑香さんの作品「障害を持つ人の気持ち」は、聴覚障がいでは話の不自由なおぼとの交流体験を通して、障がいの者の気持ちに寄り添い、同じ目線で考えることの大切さを綴っています。そのためには、障がいの者の話に耳を傾け、その人なりの悩みや気持ちを理解す

ることが、心の輪を広げることになると訴えています。

優秀賞に選ばれた沖縄尚学高等学校附属中学校二年 田場衿花さんの作品「心の輪」は、聴覚障がいのあるクラスメイトからの悩みを聞いたり交流するなかで気づいた、人に気持ちを伝えること、理解しあうことの大切さが綴られ、素直な気持ちが読者にも伝わってくる作品です。「十人十色の性格があるように障がいも個性」とクラスメイトの前向きな考えが作者に伝わり、理解を深めていく様子も上手に表現されています。

同じく優秀賞に選ばれた沖縄尚学高等学校附属中学校三年 都倉結衣さんの作品「みんな同じ」は、小さい時の経験から知的障がい者に偏見や恐怖感を抱いていたが、友人と障がい者施設の夏祭りを手伝うなかで知的障がい者と直に触れあい、理解を深めていく様子がうまく描かれています。また、このような経験から少しでも多くの人が施設を訪問して障がい者と接する機会を増やし、理解して欲しいと訴えています。

○高校生・一般市民部門

優秀賞に選ばれた沖縄県立首里東高等学校三年 浦崎汐璃さんの作品「大切な言葉」は、中学生のころ、いじめにあい、「私なんか誰からも必要とされていない。居なくてもいい存在なんだと絶望的な気持ち」になっていたが、車いす利用の友人から「いつも、何も言わずに手伝ってくれてありがとうね」と声をかけられ、その「ありがとう」の一言が「大切な言葉」になったと綴っています。汐璃さんはその後、自分の中にある様々な気持ちと向き合いながら、「無駄なことはいつもない」と、考え方をプラス思考に変えることで、高校生活を充実させていきます。「成長した」という汐璃さんの明るさに感動しました。できれば、その後の友人とのエピソード

ド紹介や障がいのある人との触れあいなどの「心の輪」を広げる体験があるとなお、良かったと思います。

平成二十一年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員一同

障害者週間のポスター審査講評

○小学生部門

優秀賞（三位）糸満市立潮平小学校四年 安里一香

八百屋さんで買い物をしているところでしようか、笑顔で明るく和やかな雰囲気がよく表現されていますね。残念ながらリンゴの赤とエンジンの橙色が目立ちすぎて何のポスターか分かりにくくしています。その部分をもう少し小さくして、車いすの部分をもっと大きく画面に入れて表現すると素晴らしいポスターになったと思います。

○中学生部門

優秀賞（二位）北谷町立桑江中学校三年 伊・千秋

顔の表情に明るい雰囲気があり、高齢者をいたわる心がうまく表現されています。横断歩道を渡るときの高齢者への自然な思いやりも快く伝わってきます。斜めに横断歩道を描いた大胆な画面構成もポスターとしての効果を出していて、色彩もポスターとしての訴求力があります。

形の表現においても少し発達段階に応じた表現力があるともっと素晴らしい作品になったと思います。

審査委員 与久田 健一



心の輪を広げる体験作文入賞作品

最優秀賞

小学生部門〈沖縄県知事表彰〉

みんなともだち、いちねんせい

石垣市立 白保小学校 一年

安生 心優

「どんなこがいるのかなあ。」
「どんなゲームをするのかなあ。」
わたしは、すぐドキドキしていました。
ろくがつふつか、わたしたちのがっこうとくべつ
しえんがっこうの、こうりゆうじゆぎようがありました
た。

まえに、

「しえんがっこうってなあに？」

と、おかあさんにきいたら、

「どこかにしようがいがあつて、ふつうのがっこうに
いけないひとのための、がっこうなんだよ。」

と、おしえてくれました。そのときは、

「ふうん、そうなんだ。」

としか、わたしはおもっていませんでした。

しえんがっこうにいくなんにちかまえ、

「しえんがっこうのいちねんせいは、よにんです。な
まえをおぼえてあげましようね。」

と、せんせいが、よにんのなまえをおしえてくれまし
た。なまえをおぼえても、あうのは、きようがはじめ
てです。

しえんがっこうにつくと、いちねんせいのよにと
せんせいが、あるいてむかえにきてくれました。せは、
わたしたちとおなじくらいでした。

はじめに、じこしようかいをしました。わたしたち

はひとりずつ、しえんがっこうのよにんは、せんせいといっしょにしました。みんな、じょうずにじこしようか
いできました。

「ふつうにはなせるんだなあ。」

と、おもったら、

「どんなことをはなそう、ともだちになれるかなあ。」

とますますドキドキしてきました。

つぎに、みんなで、てのうたをうたいました。おおき
いこえでうたったら、すこし、ドキドキがよくなってき
て、みんなニコニコしていました。

さいごに、みんなで、スケボーさんりんしややサバニ
こぎきょうそうをしました。とつてもたのしくて、

「ガンバレー！」

と、おうえんしているうちに、ドキドキもどこかへとん
でいってしまいました。かったときは、よにんといっし
よにてをたたいて、とびあがって、よろこびました。

「かってよかったね。」

「つぎもかとうね。」

と、おはなしもできて、とてもうれしかったです。

でも、もうかえるじかんです。せんせいが、

「きょうからみんなは、おともだちですよ。」

と、いいました。

「ねえ、おかあさん。しえんがっこうのよにんはね、
おはなしもできるし、うたもうたえるし、ゲームもた
のしそうにやっていたよ。わたしとおなじ、いちねん
せいだったよ。もつとたくさんおはなししたかったな
あ。もつといっぱいあそびたかったのになあ。でもね、
またらいねんも、よにんのおともだちにあえるんだっ
て。らいねんは、いっぱいおはなししよう。だってお
ともだちになれたんだもん。らいねんの、こうりゆう
じゆきょうがたのしみだなあ。」

最優秀賞

中学生部門

「障がいを持つ人の気持ち」

沖繩尚学高等学校附属中学校 三年

長嶺 佑香

私には、聴覚障害を持つおばがいます。

おばは、同時に右半身が少し不自由でもありません。私の祖母が、妊娠中に風疹になってしまったからです。

ある日、私の親類の子が、おばに向かい、

「はあ？何言ってるか分からんし。」

と言って走って逃げて行きました。その子は悪い事をしてるのをおばに見つかってしまい注意されたのでした。しかし、おばは呂律がうまく回らないため小学校

低学年の子には聞き取れなかったのでしょう。おばは、側にいた私に、何て言ってた？と聞いてきました。私は、本当の事が言えずに自分も聞こえなかった、と伝えました。

その時は、おどけて家事に戻ったおばでしたが、心の中ではとても悲しい気持ちになっていたと思います。言葉は、聞こえなくても相手の表情は見えていたのですから。

また、何年前かに親戚で集まってグラウンドゴルフをするという事がありました。その時おばはそれに参加しませんでした。元々、多くの人が集まる所には行きませんが、親戚しかいないので来るかな？と思いをかけてみました。でも、やっぱり行かないと言われてしまいました。私は、不思議に思いません。行かないのかを聞いてみました。おばは、いつも人としゃべったり、人の会話を理解する時に、その一人一

人の口の動きを見ているのだそうです。その話す人数が多くなるにつれて会話に入れなくなったり、笑ったりするのが遅くなってしまうため行くのが嫌なのだと言っていました。

私は、そんな理由など考えてもみませんでした。耳が聞こえる私にとってそんな事は、ありえないからです。

私は、この二つの事から障害を持つ人の気持ちや視線になって考えることがどれだけ大切かを改めて実感しました。

私のおばの様に、その人しか分からないような悩みや気持ちを抱えている障害を持つ人はたくさんいると思います。私は、その様な人達の話や、みんなを耳を傾けるべきだと思います。そして、その人達の気持ちを理解してあげるべきです。そうすることによって、障害を持つ人たちの心は軽くなるだろうし、私達のもの

の見方や考え方も変わり、視野が広がると思います。私は、これから心の輪を広げるため、障害を持つ人の力になるため、色々な言葉に耳を傾けます。

優秀賞

中学生部門

「心の輪」

沖繩尚学高等学校附属中学校 二年

田場 衿花

私の友達に耳が聞こえないという障害を持った子
がいました。その子は誰がどこからどう見ても耳が聞
こえないという障害を持っているようには見えないぐ
らい普通の子と変わりのない子でした。その子は誰に
でも話す（手話で）時は笑顔で楽しそうに話したり、
一緒にサッカーやバスケットをして遊ぶ時もみんなに
ボールが回って来るようにパスを回してくれたりとて
も優しい子でした。

そんないつも笑顔でいっぱいのその子に私は「悩み

事とかある？」と聞くとその子は「男子がふざけなが
らからかうのが嫌だな。」と言っていました。確かに今
考えて見れば、耳の障害を持った彼女には喋り方に特
徴があったりしているのを知りながらふざけながらそ
のまねをしているなどのからかいがありました。私は
そんな人達を注意できないままでした。

しかしそれを知っていたのかかわらないが彼女は注
意できないままの私に「十人いればね十とおりの性格
や考え方があってんだよ。」と言ってくれました。私が
その言葉の意味を考えていると彼女は、「みんなが同じ
顔で同じ性格だったりしたら、楽しくないでしょ？そ
れこそ一人一人の顔、性格、考えがあるから、相手の事
を知ろうとするし、自分の事を知って欲しいから、伝え
ようと努力するんだよ。だから私みたいに耳に障害を
持っているからかわれたりしても普通に障害を持って
ない人達と同じような人間であり同じような時間があ
たえられ生きているんだよ。」と言いました。

私が彼女みたいな障害を持つている人とふれあつて感じた事は、友達や家族を大事にしてお互いに助け合い、なやんだり、きそつたり。時に、けんかをして、それで成長していくんだなと思ひました。

今の世の中、事件がたえず、一日一日をしのぶように過ごしている人達が、世界に何億人といひます。そんな中、私達は、どのように生きていけばいいのでしうか。私は、こう思ひます。小つさな事から始める事。自分の考えをちゃんと伝えて一緒に考えていけるときつと仲良くなれると思ひます。そうすると友達の輪や心の輪が世界中に広がり人の心がおだやかで優しい気持ちになつた時。その時は、きつと平和で美しい世界に生まれ変わつていひるでしう。

だから今日も、たくさんの人に会つて、友達になつていひたいと思ひう。

優秀賞

中学生部門

みんな同じ

沖繩尚学高等学校附属中学校 三年

都倉 結衣

みなさんは、障害者のための施設に行った事がありますか？

私は保育園生の時に、母の仕事場の知的障害者の施設に行った事があります。

その時に、職員しか入れない所に利用者の男の人で、年が自分よりだいぶ上で、多分三十代ぐらいの人が入ってきました。そしてその人は私の所に来て、私はいきなり叩かれ泣かされた事がありました。後に母か

ら聞いた話によると、その男の人は私に、頭を撫でているつもりだったそうです。そのため、私は小さい頃から知的障害者の方に対して、偏見や恐怖感がありました。

今年の夏に私は友達と、その施設での夏祭りの手伝いに行く機会がありました。私達はステージ係で、ステージ係は二人で一人の利用者を受けもち、ご飯食べたりステージで踊ったりして行動を共にします。私達が受けもった人は四十代ぐらいの女の人で、私達と色違いの甚平を着ていました。その事もあって、その人はすぐに仲良くなつて、言葉は片言でしたが、家族の話や好きな物の話、施設での話などをたくさん話しました。私は話をしていてる時に、知的障害者の方に対して偏見や恐怖感があったはずなのに、いつのまにかなくなっていることに気づきました。知的障害者の方と実際に話をしたり、一緒に何かをする事で、他の人と同

じように接する事ができて、とても楽しむことができ
ました。帰りには、その友達と

「今日、来れて良かったね。初めは少し恐かったけど、
職員の方からサポートを受けながら、たくさん勉強す
ることができて、利用者の方とも仲良くなれていい経験
になったね。」

と話しました。今回の体験で私が得た事は、ただ偏見や
恐怖感が治っただけでなく、私達自身も坂の時の車イ
スの降ろし方など、たくさんさんの事を勉強できました。私
達と一緒に行動した利用者の方からの話の中でも、家族
や施設の方々への感謝や気持ちの持ち方を改めて教え
てもらいました。そして、職員の方々も、この仕事の中
でうまくいかない事があつたりして、ストレスが溜まる
事も少なくないと思いますが、それでも楽しくやってい
る事に対して感心を持ちました。この仕事は、体力も忍
耐力も必要とされる仕事だと思うので、正直いろんな

事に対して、驚かされる部分が多数ありました。

もし、今障害者の方に対して、偏見や恐怖感がある
人がいるなら、一度そういう施設に行つて話をした
りすると思います。私も、祭りに行つた四、
五時間くらいでしたが、お互いを理解しあう事で、仲
良くする事ができました。初めは、挨拶や会話を隣で
聞く事からでもいいので、少しでもたくさんの方がそ
ういう機会を増やしてほしいです。障害を持つている
人も、私達と同じ人間です。ただ体の一部に障害を持
っているだけなのです。障害を持つている人が、健常
者と同じように、不自由のない社会に近づけられるよ
うになるといいなと思います。

優秀賞

高校生・一般市民部門

大切な言葉

沖縄県立 首里東高等学校 三年

浦崎 汐璃

「ありがとうございます」

この言葉は、私にとって、とても大切な言葉です。この言葉が大切と思えたのは、一人の女性との出会いでした。

中学が同じだった友達に車いすの子がいました。その子は、車いすでいて、教室に入る時に、小さな段差があつて、それが乗りこえられなくて、動けずにいました。他に頼めるような人も居なかつたみたいで、と

でも困っている様子でした。それを見て、私は声をかけて、押してあげました。これが私と彼女が出会うきっかけでした。

それから、体育の時の着がえを手伝ってあげたり、移動教室の時に、車いすを押してあげたり、提出物の時に手を貸したりしました。最初の頃は、喜んで手伝っていました。授業に遅れたり、一人の時間がなかつたりなどした為、嫌になつてきました。

「どうして自分がやらないといけないのか」「他の人にも頼んだらいいのに」などと、心の中で思っていました。

しかし、そんな私に気づいてくれた彼女は、自分の出来ることは、自分でやって、出来ないことは、頼むという様にしてくれたのです。その時、私はとても嬉しくなりました。

ある時、彼女は自分に突然こんな事を言ってくれま

した。

「いつもごめんね。大変だよ」と。

私は、意外な言葉に驚きました。その時すでに私は、彼女の手助けをすることは、全然苦だとか辛いと思つてはいませんでした。だから「全然大丈夫だよ。気にしないで。」と答えました。それから、これと同じ様な会話を度々交わしました。そんなある日、私に対して、「いつも、何も言わずに手伝つてくれてありがとうね」と再び言つてくれました。その言葉を聞いた時、今まで、彼女の手助けをして良かったと思えました。

実を言うと、私は、ちょうどその時、周りから無視されたり、陰で笑われたりと「いじめ」を受けていました。リーダー的な人にあだ名を付けられました。それは、私の見た目からでした。私はとても悲しく辛かったです。が、恥ずかしくてその事を誰にも相談できませんでしたが、私の様子がおかしく、心配してくれる先生もいましたが、

私は決まつて、「大丈夫」とだけ答えていました。どうして、自分がそんな目にあうのかわかりませんでした。

「なんで、自分なんだろう？」「私が彼らに何かしたのか」と、何度も何度も考えました。しかし、思いあたる事はありませんでした。

教室の廊下を普通に歩いていただけなのにふと周りをみると、グループになった男の子たちが私を見て、クスクス笑つていたり、授業中など隣の人に質問しても、答えてくれなかったり、私の陰口を言つていたりした事がありました。

とても、シヨックで、誰も信じられなくなりました。そのような状況の中で、私なんか誰からも必要とされていけない。居なくてもいい存在なんだと絶望的な気持ちになりました。

しかし、ふとした事から彼女の手伝いをするように

なり、「ありがとう」と感謝の気持ちを送られ、とても嬉しく、あたたかい気持ちになりました。こんな自分にも、必要としてくれる友達がいるんだと思えたからです。その時から、「ありがとう」という言葉は、とても大切な言葉と気づきました。

「ありがとう」

その一言によって、変わったことがあります。それは私自身の成長です。

二つ目の成長、それは、感謝の気持ちを出し、出来るようになったことです。

今までだと、手伝ってもらったこと、親に送り迎えをしてもらうこと、すべてに対して、「あたりまえ」と思っていました。しかし、これは、「あたりまえ」でないと感じかされたのです。今まで、「ありがとう」という言葉をあまり使っていなかった事をとて後悔しました。

二つ目の成長は、自分を変えようという事には挑

戦ってきたことです。

人の前に出るのが苦手だったけど、一年の時には初めて、スピーチコンテストに出場する事が出来ました。参加するまでは、どうしようかととても悩みました。自分出来るのだろうか。

しかし、自分を変えるチャンスだと決めていたので悩んだ末出場を決意しました。また他に挑戦した事は二年生の時に副HR長に立候補し当選したことでした。一度も学級役員を経験した事がなく、とても不安でいっぱいでした。しかも、舞台祭ひかえていて、それについても考えなくてはいけなくて、とても無理だなと思っていました。でもみんなのサポートもあり、舞台祭も成功することができ、私にとって、一番の思い出になりました。それと同時に、大きな成長となりました。そんな風に行動したら、今まで暗くて周りが見えなかった世界が急に私にとって、明るくな

つてきました。物の見方が変わりました。物事のとらえ方もマイナスの方ではなく、プラスの方向にと変わってきました。目の前に起こる事すべてに対してチャンスだと思えるようになりました。今ここで、自分が行動に移せば何かのためになる。無駄な事は何一つないのだと思つて。ここまで自分が変わったのは彼女に言われた「ありがとう」という一言でした。

彼女とのふとした出会いにより、私はここまで変わることが出来たのだと思う。だから私は、彼女に感謝したい。そして、彼女のような人を見かけたら、すぐに手を差しのべられる人になりたい。

これが、私が彼女に教えられた、大切な言葉です。

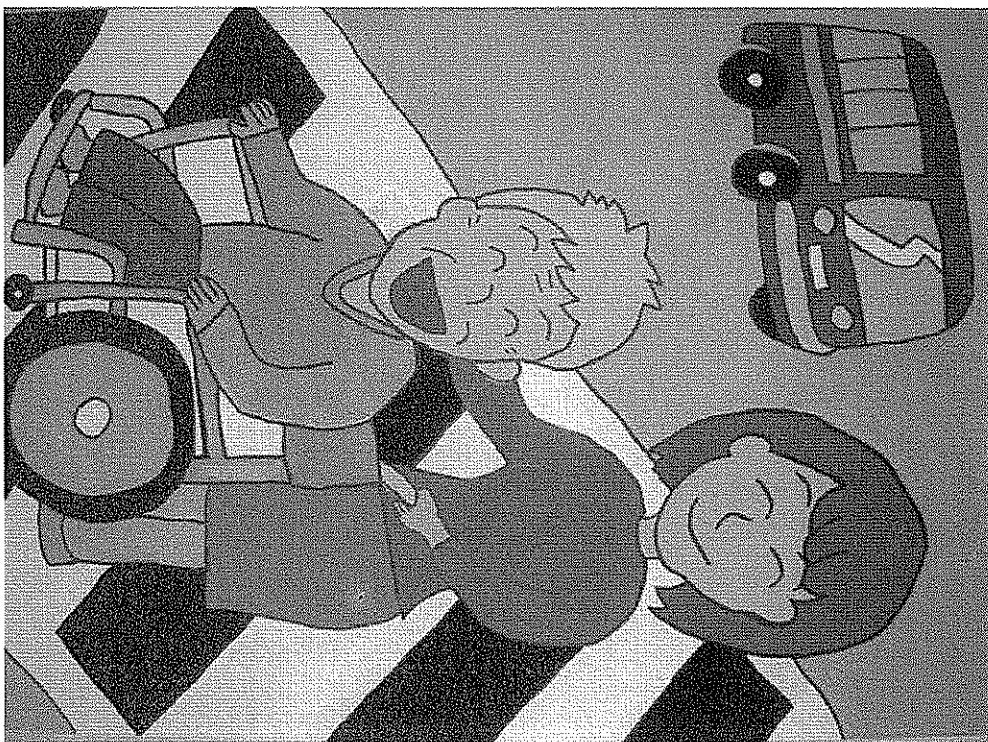
A decorative oval frame with a halftone texture, featuring stylized floral and geometric patterns. The text is centered vertically within the frame.

障害者週間のポスター入賞作品

平成21年度「障害者週間のポスター」優秀賞作品



米満市立 潮平小学校 4年生
安里 一香



北谷町立 桑江中学校 3年生
伊・千秋

平成二十一年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」審査委員名簿

神里博武

かみざと 社会福祉研究所所長

嘉数睦

沖縄県立盲学校校長

竹藤登

琉球リハビリテーション学院社会福祉学科長

翁長彰

障害者支援施設 太希おきなわ施設長

与久田健一

読谷村立美術館長

垣花芳枝

沖縄県福祉保健部障害保健福祉課長

上間彰

沖縄県身体障害者福祉協会常務理事

へいせい ねんど こころ わ ひろ たいけんさくぶん およ しょうがいしゃしゅうかん
 平成21年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」

おうぼじょうきょう
 応募状況

こころ わ ひろ たいけんさくぶん おうぼじょうきょう
 「心の輪を広げる体験作文」応募状況

くぶん 区分	けい 計
しょうがくせいぶもん 小学生部門	へん 2編
ちゅうがくせいぶもん 中学生部門	へん 44編
こうこうせい いっぱんしみんぶもん 高校生・一般市民部門	へん 2編
ごうけい 合計	へん 48編

しょうがいしゃしゅうかん おうぼじょうきょう
 「障害者週間のポスター」応募状況

くぶん 区分	けい 計
しょうがくせいぶもん 小学生部門	てん 1点
ちゅうがくせいぶもん 中学生部門	てん 1点
ごうけい 合計	てん 2点